

所在地：市川市須和田1-32-20

施主：園田 潔

設計：園田 潔

施工：(株)中野工務店

高齢者・障害者等に配慮した建築物

市川の家

病気の母親と長男家族のために建てられた建築家自邸である。

“集い”をテーマにしたプランは中坪を中心に構成され、南面に母の部屋とリビングルームが並ぶ。日当たりのよい母の部屋は、二重張りの遮音壁でリビングと隔られているが、中坪に通じるガラス扉が両者を間接的に結びつけている。すのこ敷きの中坪は植木鉢が置かれ、家族不在時の母親の屋外生活スペースにもなる。その他、手すりの高さの棚、玄関脇の腰かけ板など、適度の自立を保ちながら高齢者とともに暮らす、きめ細かな配慮が随所に見受けられる。

吹き抜けのリビングルームは明るく、大きなテーブルが家族や友人の集いを演出している。角地の立地条件に配慮した外観も好感が持てる。

なお、同家では昨年末に母君が急逝されたとのことである。心痛むと同時に、高齢者に配慮した住宅が抱



えるもう一つの課題に直面する思いであった。

(北原理雄)

8

所在地：木更津市下郡字向高尾2270-1

施主：社会福祉法人みづき会

設計：一級建築士事務所 宇野哲生アトリエ

施工：ジェイ・ディ・エンジニアリング(株)

高齢者・障害者等に配慮した建築物

知的障害者更正施設 上総ゆうゆうの郷 身体障害者療護施設 上総あいらいの郷 木更津市デイサービスセンター あおばの里



標題の3施設が3階、2階、1階に配されている複合施設であるが、建築上の差はない、敷地面積7,848㎡、

総床面積5,549㎡であるが、建物が敷地一杯に広がっており、実際以上の量感を感じさせる。それは浴室、集合室、寮母室、作業指導室といった共有部分を中庭等を間に挟みながら長方形にまとめ、その両サイドに長い廊下を設けそれに接して10人分の居室とダイニングをひとまとまりとする殆ど正方形の建物が3棟ずつ45°斜めにふって配置されてあるからである。建物を上から見ると6本の足がある昆虫のようである。

共有部分と居室部分を明確に分離して居室部分の独立性と小グループでの生活を確保できるようにしている設計のコンセプトは明確であり、高く評価できる。

さらに内装の木材の多用や防災関係、浴室の設備等、障害者への配慮が感じられた。小グループでの生活ができる小舎制の考えが、施設利用者の生活に十分生かされていくよう期待したい。

(川上昌子)